

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	40075400285		
法人名	社会福祉法人 直鞍会		
事業所名	グループホーム やすらぎ園		
所在地	福岡県鞍手郡鞍手町大字木月1826番地1 (電話) 0949-42-6883		
自己評価作成日	平成 23 年 5 月 12 日	評価結果確定日	平成 24 年 8 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者と職員の信頼関係を深め、その人らしい生活が出来るよう取り組んでいる。病院受診など健康管理にも力を入れている。又、利用者が笑顔で生活できるよう、ボランティアの協力も得ながら書道、竹細工、陶芸、音楽など楽しんでいただいている。外出の機会も多く設けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 24 年 6 月 7 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

周りは田園地帯が広がり、のどかで静かな農村地帯の一角に建つ2階建ての2ユニットのグループホームである。敷地内には特別養護老人ホームやすらぎ園があり、社会福祉法人直鞍会の系列施設で研修や行事など協力しながら利用者のサービスにあっている。
利用者が「その人らしく毎日が過ごせるように」を理念として、外部講師やボランティア連合会の方たちの協力を得て書道・音楽・陶芸など、生活に活力を見出す活動を行っている。ゆったりとした共有空間と周りののどかさが利用者の安定した毎日を支えている。
職員の離職率も少なく、働きやすい環境を提供している。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長く生活してきた地域で安心して暮らせる様『私達は、高齢者が笑顔で安心できる生活を支援します』を法人全体の理念に掲げ、またグループホーム独自の理念として『その人らしさを大切に、心やすらぐ生活を』掲げている。朝礼、各会議の折、全職員が理念を共有するよう話し合いの中で確認、意識している。	法人全体の理念とは別に、職員で作上げた「その人らしさを大切に心安らぐ生活を」というグループホーム独自の理念がある。朝礼や職員会議・ケア会議で理念の共有や理念に基づいた介護の検証など、理念に忠実な介護を目指しているが、独自の理念にも法人の理念にも地域密着型の視点がない。	事業所の社会的役割について、職員一人ひとりが理念を通して認識・理解できるように、法人の理念に基づいた理念を再検討し、地域密着型の視点を理念の中に取り入れ、実践につなげてほしい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板などで地域情報を把握している。公民館や子ども会による盆踊りや祭りみこしなどを通して交流がある。又、地域の書道・竹細工ボランティアの訪問もある。	自治会に加入しており、回覧板の情報から、地域のお祭りや盆踊りに参加している。グループホーム独自の企画やイベントはないが、法人全体の行事を地域に呼びかけており、地域の方や近くの中学生在が参加している。書道・音楽・竹細工や陶芸などを指導してくれるボランティア連合会や講師の方々との交流はあるが、近隣の住民との日常的な交流は少ない。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室を開催し、認知症などのテーマをあげながら、地域の高齢者へのケアに役立てるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、入居者の生活状況や外部評価への取り組みの報告を行い、問題点を探りサービスのより良い向上を図っている。	2ヶ月に一回開催されており、利用者・家族代表・地域の民生委員・老人クラブ代表・行政代表がメンバーである。介護内容の報告、外部評価の結果や行事の予告・報告等が主な内容である。運営推進委員からの意見や要望があまりないのが現状であるが、自己評価で課題とした「避難訓練の住民参加」は運営推進委員の参加により一歩前進し、会議を活かした取り組みになっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の受託事業である介護教室を年1回開催し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。又、花見の会などにも参加していただき、入居者の実情を伝えている。	行政からの委託で年に1回介護教室を開き、連携を取っている。また、相談事や困った際は役所に電話したり、出向くこともある。事業所の「花見の会」に行政職員も参加するなど、連携は取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。 身体拘束廃止委員会を設置し、会議、身体拘束廃止の内部研修を行っている。 玄関は電子ロックではあるが、なるべくかけないようにしている。	身体拘束に関してのマニュアルがある。その重要性を職員は理解しており、内部研修も行われている。玄関はオートロックで鍵はかかっているが、利用者の安全を重視するというところで家族の了解は得ている。また、個人の部屋にマットセンサー・時間センサー（事故防止と排せつ介助）を設置している場合も、利用者家族の了解を得ている。	玄関の施錠について、現状のシステムが当然の対応と職員が認識しない様に、鍵をかけずに安全に過ごせる工夫をして欲しい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法等について、勉強会を開催し、人権の尊重を常に考えている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関窓口にも制度に関するパンフレットを置いている。職員間も内部研修を通じて勉強会を行い理解に努めている。	権利擁護や成年後見制度については契約時に家族に説明し、パンフレット等を渡している。内部研修は行っているがその研修記録やテキストなどが保管されていない。	年間の研修計画に成年後見制度や権利擁護についての研修を盛り込み、テキストの保管・実施内容の記録を残してほしい。また、可能性のある方には折に触れて説明することが望ましい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を丁寧に説明し、入居者・家族に不安や疑問が残らないように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時に必ず意見等を聴き、運営に反映している。意見箱を設置している。相談窓口の担当者、外部機関の苦情相談窓口を玄関に掲示している。	家族会はないが、運営推進委員会への出席、年1回の一泊旅行や事業所独自の行事などを家族に呼びかけ、他の家族との交流も図っている。情報交換の場は多い。特に、普段の面会時は具体的な相談や思いが聞けるため、家族との会話を大切にしている。また、苦情対応として意見箱の設置や第三者相談窓口について契約時に説明し、玄関に掲示している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼・職員会議の他、随時職員の意見を聞いている。行事の内容や利用者間の人間関係など職員の気付きを運営に反映している。	毎日の朝礼や夜勤者との申し送り時、月1回の職員会議・ケア会議で職員の意見や提案を聞く機会がある。今回の自己評価については、職員それぞれの意見をまとめたものである。職員の意見で仕事のシフトや夜勤体制が改善されたこともある。職員が意見を言う機会があり、反映もされている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の朝礼で定期的報告と変動時の報告を受けている。毎年健康診断も行っている。心身の体調に配慮し、勤務内容の変更等、メンタル面のサポートをしている。個人の能力が発揮できるよう、考慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集時はハローワーク等に行っており、採用にあたっては、性別や年齢を考慮していない。 能力が発揮できるよう考慮している。	職員の採用に関しては、年齢・性別・資格の有無などで採用対象から外すことはない。採用は基本ハローワークで募集している。定年は60歳だが、本人の希望や体力に問題がなければ更新が可能で、73歳まで働いた職員もいた。職員の能力が発揮できるよう、また個人の資格取得の支援もしている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体により、職員倫理、プライバシー保護・個人情報保護などについて内部研修を行っている。人権尊重の標語を職員から募集し意識を高める取り組みをしている。	人権に関しては年間研修の中に組み込まれており、毎年内部研修を行っている。身体拘束・認知症・人権についての研修を実施している。研修報告書や記録もある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間内部・外部研修計画を立て、取り組んでいる。外部研修に参加した職員は、職員会議等で他の職員へ報告し、共有できるようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ボランティア連絡協議会の主催で町内のグループホーム交流会があり、入居者、職員共に交流している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後、入居に至る前に面接し、本人の気持ちを受け止め、本人の声に耳を傾け、関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当たり面接し、現在の家族状況、本人の状況を十分に聴き、理解するよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が最良であるかを見極め、多方向から検討している。ケアマネージャーとも相談している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で料理の味付けや盛り付けをしてもらっている。花の水やり、畑の草取りを一緒にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、本人の生活の様子をお話して、職員に何でも話しやすい雰囲気作りをしている。年に一度実施している、グループホーム旅行や忘年会に家族の参加を頂き、コミュニケーションを図っている。家族との関わりも深まり、気持ちが伝わるようになった。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく今まで生活してきた友人の方などへの関わりが途切れないよう、訪問しやすい雰囲気作りにも努めている。 行きつけの美容院や理容室、以前行っていたスーパーに買い物に行っている。	行きつけの理・美容院に通ったり、近くの店やスーパーで買い物をするなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。事業所に友人が訪ねてくることもある。手紙のやり取りなどを手伝えることもある。また個人の居室に固定電話を設置して家族や友人と電話の会話を楽しんでいる利用者もいる。なじみの関係が継続できる環境づくりにも努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を踏まえ、席なども職員が間に入り配慮している。入居者同士で声をかけ合い、食事の用意なども出来るよう、職員がさりげなく行っている。又、ソファの配置で入居者同士雑談しやすい環境を作っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の特養に移られた方や、長期入院となられた方へ時々会いに行くことで関係を保っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に入居者の声に耳を傾け、本人の希望する生活を実現できるよう心掛けている。アンケート調査で具体的な思いや希望を聞き、それに沿ったサービスを提供している。	本人の意向を聞きながら毎日の生活を支援しているが、困難な場合はアセスメントを見直したり、家族に尋ねたりしながら利用者本位の暮らしができるように努めている。書道・音楽・陶芸など一人ひとりの好きなことやできることに取り組んでもらっている。特に週1回の書道は作品を出品するなど意欲的な取り組みが見られ、利用者の楽しみにつながっている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの生活歴については家族等からも十分に情報を取り入れている。以前の生活環境と著しく変わる事がないように、家族との関係を密に取りながら、日々の暮らしを支えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の支援経過にて日々の様子や発言などを記入し、職員間で情報共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族へ現在のケアについての説明しながら、気付きや意見を出し合い介護計画を作成している。本人や家族の意向をできる限り反映できるようにしている。家族の同意の印をもらっている。	介護計画作成者の意見だけでなく、ケア会議によって多くの意見を反映させた介護計画を作成している。本人や家族の意向把握にも努力しており、介護計画の同意も得ている。見直しについても3ヶ月に1回行っており、大きな変化があった場合は随時行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、日々の様子や気づきを記入し、職員間の情報の共有を行い、その中でケア実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診時の支援、健康状態の把握をしている。 入院時には、主治医と相談をして早期退院に向けての協力を得ている。 外出時の送迎の支援も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティアの訪問がある。 又、避難訓練時には消防署の協力があり、警察へのパトロール強化をお願いしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医を受診していただき、通院介助方法は家族と話し合っている。また、別の医療機関へのアドバイスや希望も取り入れている。	今までのかかりつけ医を受診している。 基本は家族に受診の付き添いをお願いしているが、都合がつかない場合は職員が付き添っており、定期受診の場合はほとんど職員が付き添っている。重要な受診や入院など重篤な時は、家族の協力を得るようにしており、家族との繋がりを大切にしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の細かな変化をみのがさず、看護師に報告し、実際の容体も診てもらって、その都度指示を仰ぐようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院したときは毎日入院者介護を行い、入院中の洗濯も行っている。 早期退院に向け、主治医や家族と話し合いを行っている。 主治医や看護師からの病状報告をこまめに受けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のあり方について入居時に家族へ説明を行っている。 看取りの方針を共有している。	見取りの方針を明文化しており、職員とも共有できている。入退院時に、今後について医師と家族と相談している。2名の看護職を中心に病院との連携もはかっており、24時間の電話対応してくれる個人病院の医師もいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行っている。 救急蘇生、AEDの使用など実技研修もっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災関係マニュアル、消防計画書を作成して消防署と連携して年2回の定期訓練を実施している。消火設備の定期点検も年2回業者に依頼している。米飯、レトルト食品、飲料水の非常食や毛布、オムツなど準備している。	年2回のグループホーム独自の訓練は、地域に呼び掛けを行い、消防署と連携して実施している。その際に、機器の操作手順も確認し、新人でも扱えるようにしている。訓練には、運営推進委員や家族も参加してもらっている。非常用備品については事業所内に準備しており、一覧表を作成して職員による点検を実施している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重する介護ができるよう、内部研修や職員会議で周知徹底をしている。プライバシー保護のマニュアルがある。	マニュアルを作成し、内部研修や新人研修で周知している。失禁やトイレ誘導などあからさまな介助は避けるようにし、さりげなく対応している。ケースファイルは、人の目につかないように奥の事務所に保管している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの中で、コミュニケーションをとり入居者の希望や関心を引き出すようにしている。 生活の中での表情を注意深く、読み取り気持ちを受け入れるよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内の入居者の楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作り等の支援を行っている。体操やサークル活動があるが、入居者の希望や体調に合わせている。 起床、就寝時間も入居者のペースになるべく合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみを個別支援している。 本人の希望する美容院、美容院へ必要に応じて支援を行っている。 衣類など一緒に買物に行き、笑顔で帰って来られる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理、盛り付け、片付けを職員と一緒に楽しんで行っている。食事は職員らと同じテーブルで会話をしながら、その人のペースでゆっくり摂れるよう気遣いしている。	利用者ができる事は手伝ってもらい、職員も同じテーブルで同じ食事をしている。なるべく利用者ご自身で食事を摂れるように、食器や自助具を工夫している。基本は併設の特別養護老人ホームのメニューだが、グループホーム独自のメニューを月1回程度、利用者の希望を聞いて一緒に作っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立作成を行い、摂取量の記録をし、少ない方には補助食品で対応している。 水分摂取制限がある入居者はその都度量をチェックして調整している。 又、量や栄養バランスについて管理栄養士と職員の相談のもと、適切に支援できている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり歯磨き、うがい、入れ歯の方は外して、口腔内ケアを実施している。 入れ歯は週に一度ポリドント洗浄を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助表を作成し、排泄パターンを把握し、気持ちの良い排泄を行っている。 又、個人の状態に応じて声掛けを行っている。	排泄介助表を作成し、個人の排泄パターンを把握して声かけや誘導を行っている。支援が上手くいかない場合は、ケア会議で個人の状態に合わせた見直しを行っている。また、個人に合わせてパットを使用し、介助している。夜間はマットセンサーを使用しながら排泄の介助も行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として個別にヨーグルト、ヤクルトを摂取してもらっている。 体操や歩行などの運動も取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	月曜日から土曜日に入浴できる。日曜日は家族の面会が多いので入浴は中止している。 本人の体調や希望を聴き、入浴へ誘っている。気が向かないときは、時間をおいて再度誘う。足浴でリラックスしてもらう時もある。	日曜日を除き、午後2時から4時過ぎまで、1日5～6人程度入浴しており、毎日入ることも可能である。入浴はマンツーマンで本人の要望を聞きながら実施している。入浴拒否のある方は、時間や声かけの職員を変えて誘導しているが、どうしても無理な場合は清拭を行っている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、1日のリズムを通して安眠できるように対処している。 毎日の日課や行事はなるべく参加してもらうよう声掛けする。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し、薬袋に服薬の時間、名前を書き込んでいる。薬の種類、副作用については、皆が理解できるようファイルしている。薬の変更時は、症状・観察を記録し、主治医に情報提供する。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人が出来る事（盛り付け、茶碗拭き、テーブル拭き、ゴミ箱作り、洗濯物たたみ、お茶の葉包みなど）を見つけ、行ってもらったり、職員と一緒に外食、ショッピング等に出掛けたりしている。又、書道・竹細工・音楽・陶芸等のサークル活動も楽しみにしている。クッキー、ホットケーキ、どら焼き作りなど楽しんでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添うように家族に働きかけ、外出の機会を作っている。花見や旅行、ドライブなど外出の機会を企画している。又、近くのスーパーへ食材の買物に行く等、日常的に外出の機会がある。入居者の希望で個別に買物や外食もしている。	気候の良い時期は、毎日のように園内を散歩し、季節の花見のドライブやスーパーへの買い物にも月1回程度外出している。また、利用者の好みの食事をしに個別で外食に行っている。毎年1回、家族にも呼び掛けて一泊旅行を実施している。去年は5～6家族が参加した。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時に個人の財布にて使ってもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話やコードレス電話があり、そのたび対応している。自分でかけられない方へは支援している。家族の方への年賀状を勧めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節の花を飾り、心地よくしている。床の間や掘りごたつのある畳コーナーやソファを置き、家庭的な空間になるよう努めている。天候の良い日は外のテーブルでティータイムをしている。	共有空間のスペースは広く、ゆったりしている。畳の間もあり、落ち着いた居心地よい空間になっている。町の展覧会に出展した利用者の作品や旅行に行った時の写真を飾っている。訪問した際には、心地よい風が取り入れられており、風鈴が鳴るなど良い雰囲気だった。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下にソファを置いて、入居者同士と一緒に共有できるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた馴染みの物品を持ってきて頂き、家族と一緒に落ち着ける部屋作りをしている。 又、サークル活動での作品も飾っている。	本人の馴染みの家具が持込まれており、居室は利用者の個性が感じられるようになっている。家族の写真や本人が作った作品が飾られており、居心地のよい部屋作りがなされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、手すりの設置も十分あり、床には安全な床材マットを使用している。 又、トイレスペースを広く取り、安全性を確保している。入居者の状態に応じて、手すりや家具の配置を変えて安全な環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	長く生活してきた地域で安心して暮らせる様『私達は、高齢者が笑顔で安心できる生活を支援します』を法人全体の理念に掲げ、またグループホーム独自の理念として『その人らしさを大切に、心やすらぐ生活を』掲げている。朝礼、各会議の折、全職員が理念を共有するよう話し合いの中で確認、意識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板などで地域情報を把握している。公民館や子ども会による盆踊りや祭りみこしなどを通して交流がある。又、地域の書道・竹細工ボランティアの訪問もある。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族介護教室を開催し、認知症などのテーマをあげながら、地域の高齢者へのケアに役立てるよう努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、入居者の生活状況や外部評価への取り組みの報告を行い、問題点を探りサービスのより良い向上を図っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の受託事業である、介護教室を年1回開催し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。又、花見の会などにも参加していただき、入居者の実情を伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。 身体拘束廃止委員会を設置し、会議、身体拘束廃止の内部研修を行っている。 電子ロックは玄関ではあるが、なるべくかけないようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法等について、勉強会を開催し、人権の尊重を常に考えている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関窓口にも制度に関するパンフレットを置いている。職員間も内部研修を通じて勉強会を行い理解に努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書を丁寧に説明し、入居者・家族に不安や疑問が残らないように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時に必ず意見等を聴き、運営に反映している。意見箱を設置している。相談窓口の担当者、外部機関の苦情相談窓口を玄関に掲示している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼・職員会議の他、随時職員の意見を聞いている。行事の内容や利用者間の人間関係など職員の気付きを運営に反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎日の朝礼で定期的報告と変動時の報告を受けている。毎年健康診断も行っている。心身の体調に配慮し、勤務内容の変更等、メンタル面のサポートをしている。個人の能力が発揮できるよう、考慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集時はハローワーク等に行っており、採用にあたっては、性別や年齢を考慮していない。 能力が発揮できるよう考慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体により、職員倫理、プライバシー保護・個人情報保護などについて内部研修を行っている。人権尊重の標語を職員から募集し意識を高める取り組みをしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間内部・外部研修計画を立て、取り組んでいる。外部研修に参加した職員は、職員会議等で他の職員へ報告し、共有できるようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ボランティア連絡協議会の主催で町内のグループホーム交流会があり、入居者、職員共に交流している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後、入居に至る前に面接し、本人の気持ちを受け止め、本人の声に耳を傾け、関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当たり面接し、現在の家族状況、本人の状況を十分に聴き、理解するよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって何が最良であるかを見極め、多方向から検討している。ケアマネージャーとも相談している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で料理の味付けや盛り付けをしてもらっている。花の水やり、畑の草取りを一緒にしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、本人の生活の様子をお話して、職員に何でも話しやすい雰囲気作りをしている。年に一度実施している、グループホーム旅行や忘年会に家族の参加を頂き、コミュニケーションを図っている。家族との関わりも深まり、気持ちが伝わるようになった。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なるべく今まで生活してきた友人の方などへの関わりが途切れないよう、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。行きつけの美容院や理容室、以前行っていたスーパーに買い物に行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を踏まえ、席なども職員が間に入り配慮している。入居者同士で声をかけ合い、食事の用意なども出来るよう、職員がさりげなく行っている。又、ソファの配置で入居者同士雑談しやすい環境を作っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接の特養に移られた方や、長期入院となられた方へ時々会いに行くことで関係を保っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的に入居者の声に耳を傾け、本人の希望する生活を実現できるよう心掛けている。アンケート調査で具体的な思いや希望を聞き、それに沿ったサービスを提供している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの生活歴については家族等からも十分に情報を取り入れている。以前の生活環境と著しく変わる事がないように、家族との関係を密に取りながら、日々の暮らしを支えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の支援経過にて日々の様子や発言などを記入し、職員間で情報共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族へ現在のケアについての説明しながら、気付きや意見を出し合い介護計画を作成している。本人や家族の意向をできる限り反映できるようにしている。家族の同意の印をもらっている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、日々の様子や気づきを記入し、職員間の情報の共有を行い、その中でケア実践に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診時の支援、健康状態の把握をしている。 入院時には、主治医と相談をして早期退院に向けての協力を得ている。 外出時の送迎の支援も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティアの訪問がある。 又、避難訓練時には消防署の協力があり、警察へのパトロール強化をお願いしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医を受診していただき、通院介助方法は家族と話し合っている。また、別の医療機関へのアドバイスや希望も取り入れている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の細かな変化をみのがさず、看護師に報告し、実際の容体も診てもらって、その都度指示を仰ぐようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院したときは毎日入院者介護を行い、入院中の洗濯も行っている。 早期退院に向け、主治医や家族と話し合いを行っている。 主治医や看護師からの病状報告をこまめに受けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のあり方について入居時に家族へ説明を行っている。 看取りの方針を共有している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行っている。 救急蘇生、AEDのしようなど実技研修もっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災関係マニュアル、消防計画書を作成して消防署と連携して年2回の定期訓練を実施している。消火設備の定期点検も年2回業者に依頼している。米飯、レトルト食品、飲料水の非常食や毛布、オムツなど準備している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重する介護ができるよう、内部研修や職員会議で周知徹底をしている。プライバシー保護のマニュアルがある。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの中で、コミュニケーションをとり入居者の希望や関心を引き出すようにしている。生活の中での表情を注意深く、読み取り気持ちを受け入れるよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム内の入居者の楽しみごとや出番を見出せるよう、場面作り等の支援を行っている。体操やサークル活動があるが、入居者の希望や体調に合わせている。起床、就寝時間も入居者のペースになるべく合わせている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝身だしなみを個別支援している。本人の希望する美容院、美容院へ必要に応じて支援を行っている。衣類など一緒に買物に行き、笑顔で帰って来られる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理、盛り付け、片付けを職員と一緒に楽しんで行っている。食事は職員らと同じテーブルで会話をしながら、その人のペースでゆっくり摂れるよう気遣いしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により献立作成を行い、摂取量の記録をし、少ない方には補助食品で対応している。 水分摂取制限がある入居者はその都度量をチェックして調整している。 又、量や栄養バランスについて管理栄養士と職員の相談のもと、適切に支援できている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり歯磨き、うがい、入れ歯の方は外して、口腔内ケアを実施している。 入れ歯は週に一度ポリドント洗浄を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助表を作成し、排泄パターンを把握し、気持ちの良い排泄を行っている。 又、個人の状態に応じて声掛けを行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として個別にヨーグルト、ヤクルトを摂取してもらっている。 体操や歩行などの運動も取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	月曜日から土曜日に入浴できる。日曜日は家族の面会が多いので入浴は中止している。 本人の体調や希望を聴き、入浴へ誘っている。気が向かないときは、時間を置いて再度誘う。足浴でリラックスしてもらう時もある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンを把握し、1日のリズムを通して安眠できるように対処している。 毎日の日課や行事はなるべく参加してもらうよう声掛けする。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理し、薬袋に服薬の時間、名前を書き込んでいる。薬の種類、副作用については、皆が理解できるようファイルしている。 薬の変更時は、症状・観察を記録し、主治医に情報提供する。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人が出来る事（盛り付け、茶碗拭き、テーブル拭き、ゴミ箱作り、洗濯物たたみ、お茶の葉包みなど）を見つけ、行ってもらったり、職員と一緒に外食、ショッピング等に出掛けたりしている。又、書道・竹細工・音楽・陶芸等のサークル活動も楽しみにしている。クッキー、ホットケーキ、どら焼き作りなど楽しんでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添うように家族に働きかけ、外出の機会を作っている。 花見や旅行、ドライブなど外出の機会を企画している。 又、近くのスーパーへ食材の買物に行く等、日常的に外出の機会がある。入居者の希望で個別に買物や外食もしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物時に個人の財布にて使ってもらっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話やコードレス電話があり、そのたび対応している。 自分でかけられない方へは支援している。 家族の方への年賀状を勧めている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や季節の花を飾り、心地よくしている。 床の間や掘りごたつのある畳コーナーやソファを置き、家庭的な空間になるよう努めている。 天候の良い日は外のテーブルでティータイムをしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下にソファを置いて、入居者同士と一緒に共有できるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使っていた馴染みの物品を持ってきて頂き、家族と一緒に落ち着ける部屋作りをしている。 又、サークル活動での作品も飾っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はなく、手すりの設置も十分あり、床には安全な床材マットを使用している。 又、トイレスペースを広く取り、安全性を確保している。入居者の状態に応じて、手すりや家具の配置を変えて安全な環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない